

令和3年度第1回次世代モビリティサービスの在り方に関する検討会  
議事録

1. 日時：令和3年9月2日（木） 14：00～16：00

2. 場所：Zoomによるオンライン開催

3. 出席者：以下敬称略

■委員

ご所属	役職	氏名	代理
日本文理大学工学部建築学科	教授	吉村 充功 (委員長)	
九州旅客鉄道(株)大分支社	支社長	吉野 敏成	(課長)井上 貴志
(一社)大分県バス協会	会長	杉原 正晴	(理事)安部 喜代治
(一社)大分県タクシー協会	会長	漢 二美	(専務理事)渡邊 憲一
(社福)シンフォニー	理事長	村上 和子	
(公社)ツーリズムおおいた	会長	幸重 綱二	ご欠席
(公財)ハイパーネットワーク社会研究所	所長	青木 栄二	
大分県商工観光労働部	部長	高濱 航 (副委員長)	

■事務局・オブザーバー

ご所属			役職	氏名
大分県	商工観光労働部		理事	河野 哲郎 (事務局長)
		先端技術挑戦課 (事務局)	課長	佐藤 元彦
			IT戦略監	富田 龍彦
			主幹	本田 真也
			主任	小野 裕明
		主任	田邊 勝彦	
	西部振興局	地域創生部	主事	中島 充輝
市町村	大分市	都市交通対策課	課長	橋本 陽嗣
			主査	安部 順司
	別府市	政策企画課	課長補佐	佐藤 浩司
			主任	平石 健太郎

	竹田市	企画情報課	主査	佐田 直人
	由布市	湯布院地域振興局	局長	後藤 睦文
		総合政策課	課長補佐	米津 康広
		湯布院地域振興課	副主幹	伊東 美幸
九州経済産業局	情報政策課デジタル 経済室	係長	原田 紘之	
株式会社オートバックスセブン ICT プラットフォーム推進部 (事務局)		課長	花井 太郎	
			星野 和也	
			河原 美友	

#### 4. 議事内容

##### (1) 設置要綱の改正について(資料1)

事務局より、「次世代モビリティサービスの在り方に関する検討会設置要綱」の改正について説明及び承認(改正内容は下記のとおり)

- ・委員 九州旅客鉄道(株)大分支社 支社長  
(改正前) 貞苺 路也 → (改正後) 吉野 敏成
- ・事務局長 大分県商工観光労働部  
(改正前) 佐藤 章 → (改正後) 河野 哲郎
- ・事務局  
(改正前) 先端技術挑戦室 → (改正後) 先端技術挑戦課

##### (2) 大分県における次世代モビリティサービスの現状と課題について(資料2)

事務局より本検討会のこれまでの取組み、実証実験の成果、今後の取組みについて説明

##### (3) 令和3年度実証実験(案)について(資料3)

事務局より今年度の実証実験案を説明。以下、主な説明内容。

###### 【花井】

- モビリティ+αで新たな価値の創出を図る。
- 実証実験①: Mobility×地域サービス  
昨年度の野津原地域でのIoT プッシュボタン実証実験を踏まえ、今年度は竹田市を実証実験の候補地として検討中。デバイスの改良、実証対象者の増加、有償での実施、地域サービスとの連携を組み合わせる実証実験の実施を検討中。
- 実証実験②: Mobility×観光サービス  
観光地での渋滞解消に向け、パーク&ライドと多様性に富んだ移動手段を提供する実証実験について、湯布院エリアでの実施を検討中。

● 実証実験③：Mobility×シェアサービス

公共交通機関が限られているエリアにおいて、シェアリングのパーソナルモビリティ（IoT 自転車、電動キックボード）による移動手段の効果を検証する実証実験について、大在駅～日本文理大学周辺での実施を検討中。

以下、（２）（３）に関する主な意見交換の内容

【竹田市】

・竹田市の高齢化率は県内上位で 2 人に 1 人が 65 歳以上。公共交通の利用者は年々減少し、自治体の費用負担が増加している。IoT プッシュボタンは電話・スマホが苦手な高齢者の助けになる有効な手段として期待している。

【由布市】

・オートバックスセブンと防災・防犯、交通安全、教育・健康・子育て、産業振興の 4 つの項目で包括連携協定を結び、防災・防犯で試験的に河川カメラ設置などに既に取り組んでいる。また、過去 2 年間、環境省のグリーンスローモビリティの実証実験に取り組んできた。  
・コロナ禍で観光客は減少しているが、久大線が不通になっていることもあり湯の坪街道周辺へマイカーで訪れる方が多い。郊外駐車場の空き状況を来訪者へ提供して湯の坪街道までの移動手段を提供することによって、観光客・県外ナンバーの車による交通渋滞を防ぐことを進めたい。

【大分市】

・大分駅中心に電動シェアサイクルの実証実験を平成 30 年度から実施している。電動シェアサイクルは 245 台稼働している。平均 240 回/日の使用で採算に乗っていないのが現状の課題だが、登録者数は 6,500 名ほどまで伸びていてポテンシャルを秘めている。ラインではなくエリアでやるのが重要と考えている。電動キックボードの実証実験も電動シェアサイクルの実証実験と似たような課題が出てくると思っている。

【高濱】

・次世代モビリティの検討は何のためにしているのか常に立ち返ることが重要。商工観光労働部では観光活性化の話でモビリティ、MaaS の話が必ず出るが、時間ロスなく効率的に移動することしか考えていないことが多い。課題を解決しながら新たな価値を生む視点に立ち返ることが大切。事業収益性だけを考えると地方が取り残されることになるので、効率性・経済性以外の新たな価値を移動に付加する形で提供していくことが重要。

#### 【安部】

- ・実証実験①について質問。山間部での移動課題の解消としてIoT プッシュボタン、アプリなど色々な手段があるが、地域の特色を出すためには付加価値が必要。地域サービスとの連携は具体的にどのような付加価値をつけて実証実験に臨むのか、竹田市としては本実証実験後の実用可能性をどのように考えているかを教えてほしい。
- ・実証実験②について質問。パーク & ライドからの具体的な交通手段とその台数について教えてほしい。

#### 【花井】

- ・実証実験①の地域サービスとの連携はまだ具体的には決まっていないが、竹田市のタクシー会社と相談している。東京多摩地区のタクシー会社から移動+ $\alpha$ サービスしているがうまくいっていないという話を伺ったので、今後情報交換していく予定。 $+\alpha$ サービスとして買い物代行、病院への付き添いなどを考えているが、竹田市のタクシー会社と今後詰めていく。
- ・実証実験②について、台数はそれほど用意できないかもしれないが、実証実験③で使用するIoT キックボードとIoT 自転車を活用する。タクシー会社にご協力頂けるのであればIoT プッシュボタンを利用し、移動手段としてタクシーを加えたい。またバス停の場所、スケジュールなどをアプリで可視化して、バスも移動手段に加える。

#### 【竹田市】

- ・竹田市は高齢化率が高いので見守りサービスが課題。将来的な実用化については未定だが、市としても積極的に実証実験に協力していく。

#### 【渡邊】

- ・電動キックボードは利便性あるが安全性の意識が一般的に浸透していない。一般道を電動キックボードが走るとなると一般車両との混在、狭い道路での走行など心配。限られた方を対象とした限られた地域での実証実験なのでそれほど心配ないかもしれないが、実用化に向けては要検討。実証実験で貸し出したキックボードで万が一、事故があった場合、責任の所在はどこにあると考えているか教えてほしい。

#### 【花井】

- ・電動キックボードは社会的認知が低く課題が多い。大在駅から日本文理大学までの坂道は何度も現地視察した上で候補地として選ばせて頂いた。実証実験として踏み出すことで課題がより鮮明になる。保険、ヘルメット、利用者への講習など安全面への配慮、周囲の学校と住民の方々へもしっかりと説明し、事故が起きた場合の連絡体制を整えて実証実験に臨む。

#### 【高濱】

- ・由布市と竹田市の目指すビジョンと現状の課題は合致しているのか教えてほしい。

#### 【由布市】

- ・自然を重視、景観の尊重、地域の多様な文化を磨き上げる。歩いて楽しい持続可能な観光街づくりを目指す。

#### 【竹田市】

- ・いのち輝く街づくりを進める。高齢者の移動が長年の課題で、住み慣れた街を離れたくない人が多い。市内の拠点をしっかりと公共交通機関で結び、拠点に集まりやすい街づくりをする。高齢者が外出しやすくなり、住民が豊かに暮らせる街づくりを目指して、今回の実証実験にぜひ参加したい。

#### 【高濱】

- ・関係者が目指すべき姿と同じ価値観を共有することが大切。
- ・大分市の電動シェアサイクルは町の回遊を増やすなどの狙いがあると思うが、その効果測定ができるか教えてほしい。

#### 【大分市】

- ・大分市にも郊外型ショッピングモールがあり、街中心地から郊外へ人が流れている。インターネットショッピングの普及も影響している。回遊を楽しめる景観のいい街など、街に魅力があれば人が戻ってくる。人出を効果測定のひとつと考えている。

#### 【青木】

- ・NTT ドコモから全国シェアサイクルの1日の平均稼働回数は3回という話を聞いた。平均値としては十分大きい。大分市からシェアサイクル登録者数が増えてきているという話があったが、今後も増えていくと思う。単なるシェアサイクルではなく、移動データが取れて可視化ができる。他の交通公共機関との連携も考えられる。
- ・都市部、過疎地域それぞれ固有の問題がある中で全員が満足できる MaaS の実現は難しい。実証実験はなるべく参加者が多い方がいい。住民アンケートをとるなど広く定性的調査も必要ではないか。
- ・実証実験で使用する IoT 自転車とは大分市の電動シェアサイクルと同じものと考えていいか教えてほしい。

#### 【花井】

- ・同じようなもので、どこからどこへ移動したか位置情報がわかる自転車を想定している。

#### 【青木】

- ・実証実験①のサービスの無償から有償への転換はハードルが高いと思うが頑張ってほしい。
- ・実証実験②のパーク＆ライドについて、シリコンバレーでも駐車場問題は大きな問題となっている。観光、移動、駐車場など切り分けて議論するといいと思う。

#### 【花井】

- ・駐車場の空き状況の可視化は設備投資にお金がかかる問題点がある。安価なAIカメラ1台で駐車場の空き状況を判別できるようにコスト低減の視点を取り入れながら実証実験を進めていく。

#### 【村上】

- ・公共交通機関は乗る人が増えないと維持できないが、定住人口をすぐに増やすことはできない。大分県はおんせん県と呼ばれるように観光資源があるので、過疎地域に人が流れていくような仕組みをつくることで地域住民の公共交通機関の維持に繋がる。
- ・上高地、乗鞍高原、立山黒部アルペンルートなどはシーズン限定で個人の車が入らないようにパーク＆ライドが整備されている。駐車は有料だが、何日も駐車する人も多い。ハイキング、トレッキングなど健康志向の高まりによって、自分で体を動かして観光を楽しむことになってきている。駐車場を有料にしてしっかり整備することで、排ガス抑制、ゴミのポイ捨て、動植物の流入防止にも繋がり、農林業への影響も減らせる。トイレの整備等もすることで滞在時間や日数が増えて落とされるお金も増える。大分への移動経路として陸路、海路、空路があるが、現状の空路のほとんどが羽田経由。羽田を経由せずにどこの都市と結べば大分に来てもらいやすいか、大分に訪れてもらった人を陸路、海路経由でどこへ誘導したいかを考えながら道路、駐車場、移動手段など地域の特色を生かしながらIoTなど活用して整備していけるといい。

#### 【高濱】

- ・足元のモビリティの課題だけでなく大分県としてどのような観光地を目指すのか、目指す観光ビジョンとリンクさせながらモビリティを考えていく。

#### 【井上】

- ・8月の大雨で久大本線の日田—豊後森間が不通となっているが復旧に向けて動いている。九州ネットワーク維持が最大の使命。

#### 【別府市】

- ・別府市で移動課題のニーズ掘り起こしをしている。実証実験の結果を期待している。

【吉村委員長】

- ・一般財団法人地域公共交通総合研究所が主催する「地域モビリティの再構築」というシンポジウムの基調講演で政策研究大学院大学の家田仁先生が講演された際に、地域モビリティで以下4つの転換をしなければならないと話されていた。物理的転換（新しいモビリティをどう使うか）、法制度整備（新しいモビリティへの対応）、発想の転換（今までの常識にとられない考え方）、市民意識の転換（あって当たり前だったものが変わってきている）。
- ・実証実験①は2回に分けて実証実験する予定になっているが、同じ方を対象にして2回実施するのか。昨年度は利用者ごとに利用頻度が大きく異なっていたため、これまで利用していなかった方にいかにして利用して頂くかが大事な要素になってくる。

【花井】

- ・同じ方を対象に2回実施することを想定している。普段タクシーを利用しない人と利用する人、それぞれにIoT プッシュボタンを利用してもらって効果検証する。

【吉村委員長】

- ・実証実験②についてはアプリケーションの開発をするのか教えてほしい。

【花井】

- ・ベースとなる部分は弊社の見守りサービスを改良して実証実験用のアプリケーションを開発する。

【吉村委員長】

- ・実証実験②は渋滞問題というネガティブ事象を解消したいという背景があり、どうしても前面に出てきがちだが、パーク&ライドによる多様な交通手段や移動の楽しさを前面に打ち出す方がいい。
- ・実証実験③について、電動キックボードはまだ見慣れない乗り物であるため、住民や学校への何かしらアンケート、ヒアリングすることも検討した方がいい。

【青木】

- ・姫島村に電動キックボードが設置された。楽しみながら移動できることが新たなモビリティの付加価値。電動キックボード利用者は世界的に伸びてきている。セグウェイ社がNinebot という電動キックボードを市場に出し、先行しているバード社も日本法人を立ち上げて利用者を伸ばそうとしている。それ以外の企業も自治体と協定を結んで利用者を伸ばしている。リミッターを掛けなければ時速 40km 出るが、リミッターを掛けて時速 15km 以下に抑えてヘルメットなしで乗れるように規制緩和の方向で動いている。

・運転代行事業は全国で 8,000 社あり、携わる従業員は 80,000 人弱いる。このようなリソースを活用した新たなサービスを発想していくといいのではないかと。

**【村上】**

・貸し切りでタクシーを借りて街に出た場合、IoT プッシュボタンがあれば運転手の携帯番号を教えてもらうのではなく、ボタンを押せば来てくれるのでいい。また、ホテルから IoT プッシュボタンが渡されるようなサービスがあると利便性が高くなる。いろいろな使い方ができてアイデアが広がる。

**【花井】**

・人々の楽しみ、動きに多様性が必要。歩きたい人、電動キックボードに乗りたい人など、それぞれの移動ニーズに合わせたサービス提供ができるといい。実証実験を通じて課題を洗い出していく。

**【吉村委員長】**

・様々な意見を頂いたが、事務局から提案された 3 つの実証実験案「IoT ボタンによるタクシー配車の有償での再実証」、「観光地における渋滞等の移動課題解決」、「多様な移動手段の提供による移動活性化」について進めていくということでご承認いただけるか（意義なし）。  
・それでは、ご承認いただけたということで、事務局を中心に更なる検討を進めていただきたい。

**(4) 閉会**

事務局より、「第 2 回次世代モビリティサービスの在り方に関する検討会」の開催について、改めてご案内する旨を連絡して閉会

以上